

- ペスタロッチ: 貧しい子どもによりも?
- フレーベル: 幼児教育
- モンテッソーリ: "
- コメニウス: "
- コンドルセ: 万人の教育, 公教育,
- デューイ: 生活

教育原論リアクション (第7回、2019年5月31日) 教育思想

番号 19600 氏名

- 1 前回リアクション (5月24日) を読んでの感想
不登校、いじめ、ホームスクーリングについて授業を受けて様々原因がある中で、その中で学校責任の他、家庭での原因もあることは正直おどろきました。問題に対しての対策は色々例がありますが、やはり社会でのいじめの定義を共通理解することが大切なのではないかと感じました。
- 2 主な教育思想家の考えと著作 (誰か2人を選んで)

- 1 ルソー 1712~1778年 「学問芸術論」(1750) 「人間不平等起源論」(1755) 「社会契約論」(1762) 「エミール」(1762)

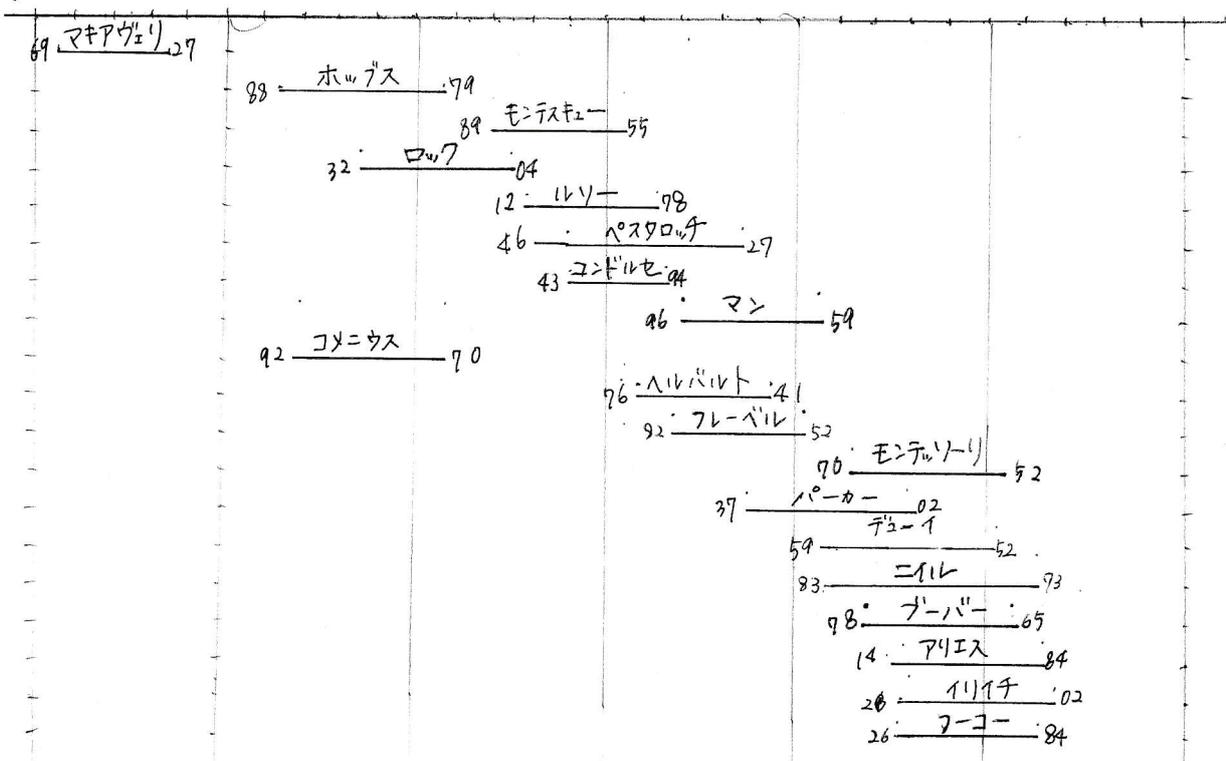
〈考え〉
→ エミール においては、「万物をつくる者の手をはたれるときすべては善いものであるが、人の手にはうろたえと悪くする」と述べ、「合自然」の立場から教育のあり方を提言し、社会契約論の冒頭では「人間は生まれながらにして自由である。しかし、今やいたるところに鎖につながれている」と痛烈な批評を投げかけた。子どもは内なる自然に従った教育を受けるべきである。

- 2 コンドルセ 1743~1794年 報告書「公教育の一般的組織に関する報告および法案」

〈考え〉
→ 公教育としての国民教育の理念をフランス革命の自由と平等の精神に求めた。平等原則に基づいて、すべての人に教育を開放しようとする試みもあった。また、学校の設置に際しては、学校分布の平等性という点で、フランス革命の自由、平等、博愛の精神で公教育の政治や宗教的権力からの独立性を提起。実行に移されることになった。

- 3 教育思想家の生きた年代を図示しなさい。

1450 1500 1550 1600 1650 1700 1750 1800 1850 1900 1950 2000 2050



- 4 他の人からコメントをもらう。

() → (色分けがされていてみやすい!!! 答)

いじめの回避責任(目録)

本人 4割
家族 3割
学校 3割

辛い子どもが幸せになるために
大人が助けてあげれば良い。
しかし、いじめられて逃げられ
なかつたから本人が悪い。と
いうのは、学校という集団に

属している子どもが
自分で受けられるか、
といったら難しいと思う。

教育原論リアクション (第7回、2019年5月31日) 教育思想

番号 1960 氏名

- 1 前回リアクション (5月24日) を読んでの感想
ホームスクーリングについて、私は学校に行くべきだと考えていたが、根拠となる考えが具体的に出なかった。しかし、他の人の考えを読んでもみると、社交性や生徒が内気になってしまうなど、意見をまとめたので自分も見習いたい。
- 2 主な教育思想家の考えと著作 (誰か2人を選んで)

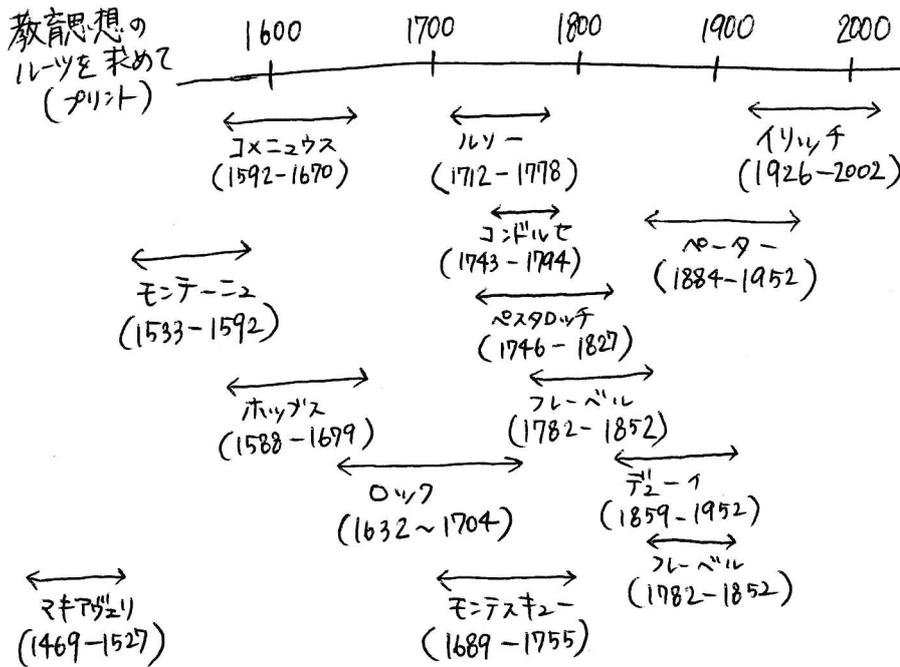
P10~16 1 <ペスタロッチ> 「隠者の夕暮れ」

貧しい子どもでも不自由なく、生活、学習するための環境を整えた。民衆学校の設立。貧しい民衆を救済するための拠り所を教育に求めたペスタロッチは、現状を改善するための方法ではなく、根本的に改良しようとした姿勢が素晴らしいと思った。貧困から救い出そうとするヒューマンズへの米精神が流れている。

2 <ルソー> 「学問芸術論」「社会契約論」

「人間は生まれながらにして自由である。しかし今やいたるところで鎖につながれている」や、「万物をつくる者の手をはなれるときすべては善いものであるが、人間の手になるとすべてが悪くなる」など、言葉選びや、インパクトが痛烈だがルソーの考えには納得させられる。自由ではあるが、考え方は一定に縛られているし、人間が余計な手を加えることで悪くなることもあるため、ルソーの思想に感服した。

3 教育思想家の生きた年代を図示しなさい。



4 他の人からコメントをもらう。

() → (このところを上手にまとめられていると思う)

